

外国にルーツがある児童へのことばの支援

～きこえとことばの教室での実践～

東京都渋谷区立神南小学校

薄 洋介

問題と目的



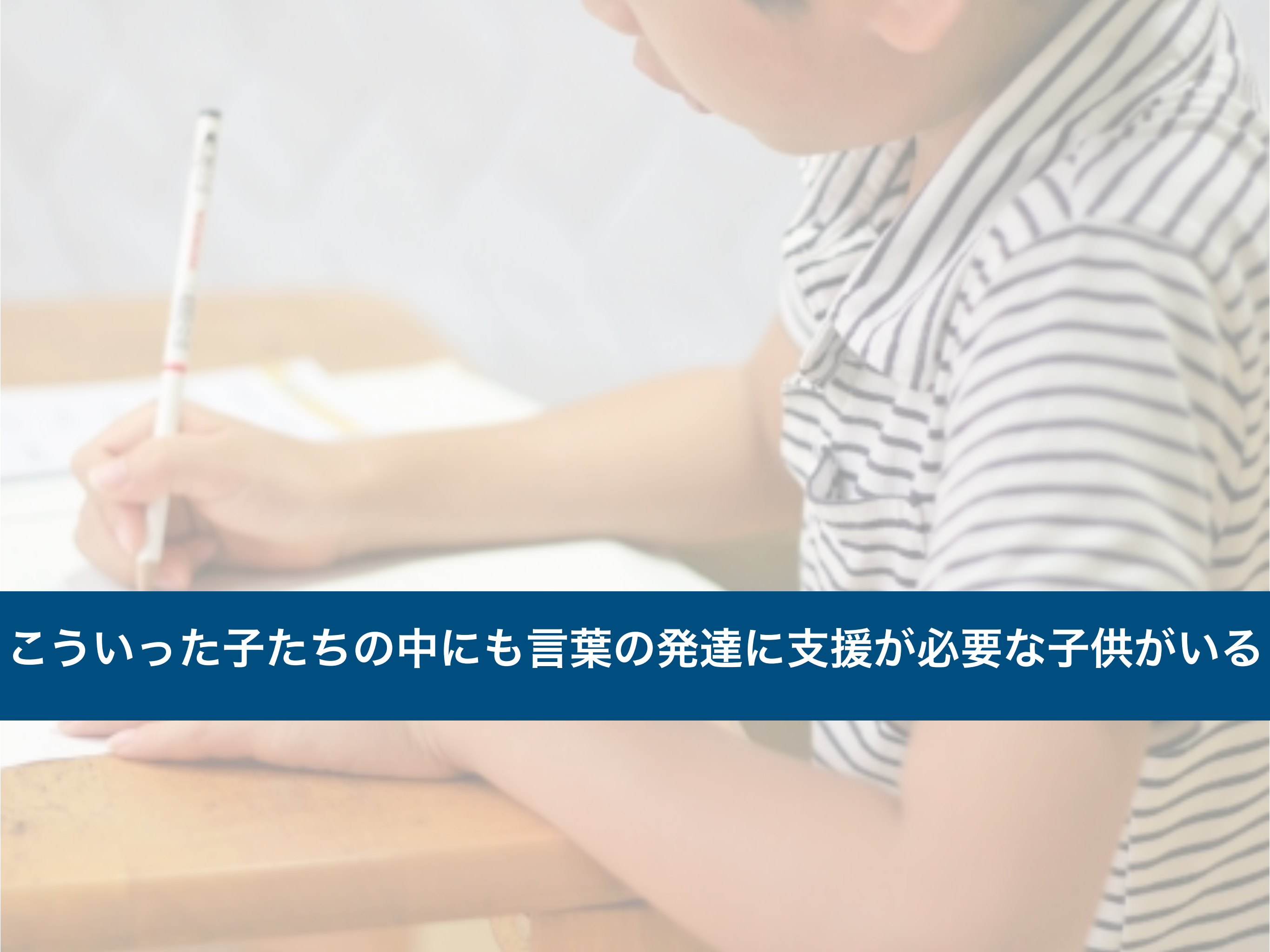
グローバル化により、国境を超えた移動が活発になった

(柴山・ビアルケ・高橋・池上,2016)

複数の言語に触れて育つ子供が増え続けている

(柴山・ビアルケ・高橋・池上,2016)



A young child with dark hair, wearing a white shirt with thin blue horizontal stripes, is sitting at a wooden desk. The child is holding a white pencil with a red band and is writing on a piece of white paper. The background is a plain, light-colored wall. The image is slightly blurred, focusing on the child's hands and the writing process.

こういった子たちの中にも言葉の発達に支援が必要な子供がいる

こういった子たちの中にも言葉の発達に支援が必要な子供がいる



その一方、

課題

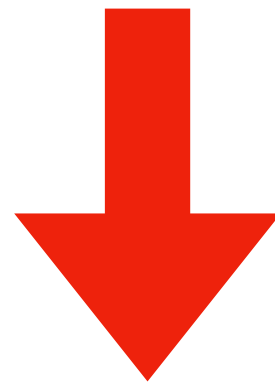
- ・ 先行研究が少なく、アセスメント手段が確立していない
- ・ 児童の状態を正確に捉えられず、支援方法を見つけにくい

(島田,2016) (加川,2020)

課題

- ・ 先行研究が少なく、アセスメント手段が確立していない
- ・ 児童の状態を正確に捉えられず、支援方法を見つけにくい

(島田,2016)



目的

児童の実態に合わせた検査バッテリーを選定し、
そこから有効な支援方法を絞り出し、実際の支援過程を考察する

テクノロジーはこの分野にも活用できる？

本児の実態

対象児：Aさん（第4学年・男児）

■本児について

- ・言葉の理解力がない
- ・授業についていけない

■支援の状況

- ・第1学年より「きこえとことばの教室」に通級している
- ・今年度は週1回・90分

保護者の母語について

父：日本語

母：北京語

※家庭での使用言語は日本語

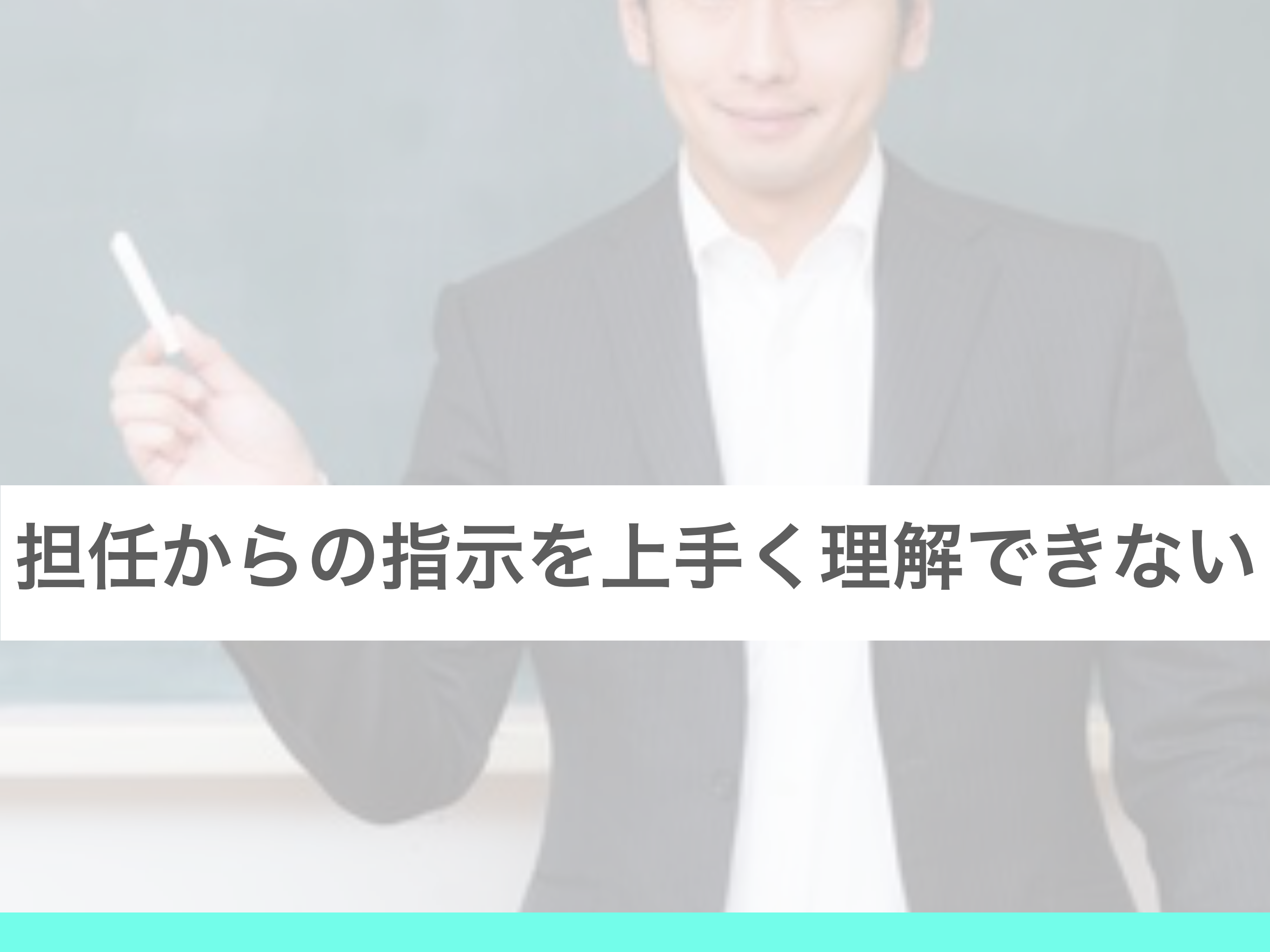
言語環境について

- ・ 生後からずっと日本で生活している
- ・ 家では母親と関わる時間が長い（生活・学習）
- ・ 幼児期は祖母のサポートを依頼することもあった
その際は北京語でのやり取りだった



エピソード

主に低学年の時の話

A man in a dark suit and white shirt is holding a white stick in his right hand. The background is a blurred indoor setting. A white horizontal bar with black text is overlaid on the image.

担任からの指示を上手く理解できない



問題が理解できず、テスト中に涙を流す





友達とのコミュニケーションが上手くいかない





学校でストレスが溜まり、家では常に癇癪を起こす

会話の様子

担当者

「おうちに必ずいるのは、何時くらいですか？」

Aさん

「おうちに必ずいるのは、だいたい、金曜日、金曜日は、
7月は、8月になったらプールで、水曜日6時くらいに
やってダンスは金曜日の5時半から6時半くらいに終わる」

本児の特徴

学ぶ内容を明確に伝えられたことは定着している

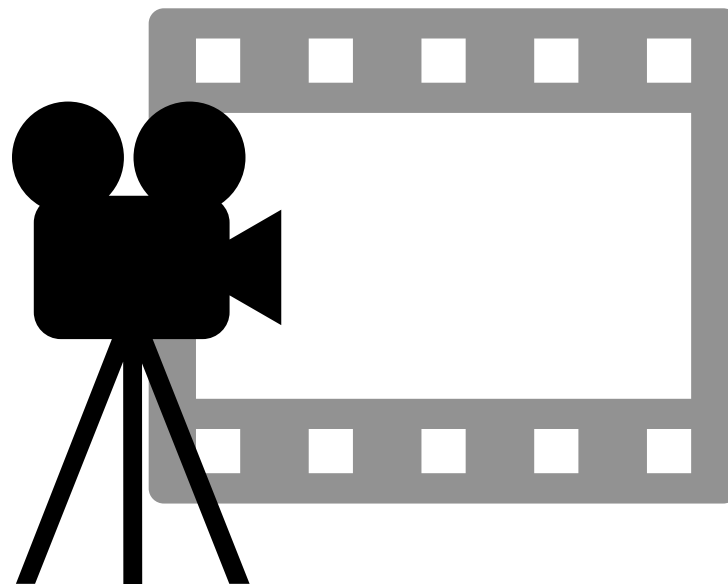
- ・ 計算は次学年の課題にも取り組むことができる
- ・ 漢字は練習を重ねることで積み上げができる



本児の特徴

興味のあるものはよく覚えている（保護者より）

- ・ 映画やアニメは好きでよく見ている
- ・ 気に入った話の内容はよく覚えている



アセスメント

検査バッテリー選定の理由

知的発達水準を
確かめたい



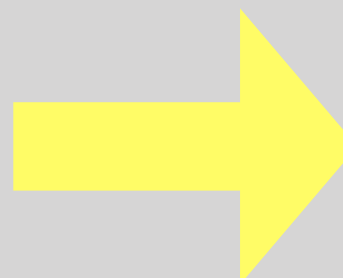
WISC-IV

情報処理の傾向や
学習面を確かめたい



KABC-II

言語発達を多側面
から確かめたい



LCSA

PVT-R

再生ナラティブ言語評価法

「言語発達を多側面から確かめる」とは？

→ 言語の4つの側面を捉える

音韻

「音」の側面

語彙

「意味」の側面

統語

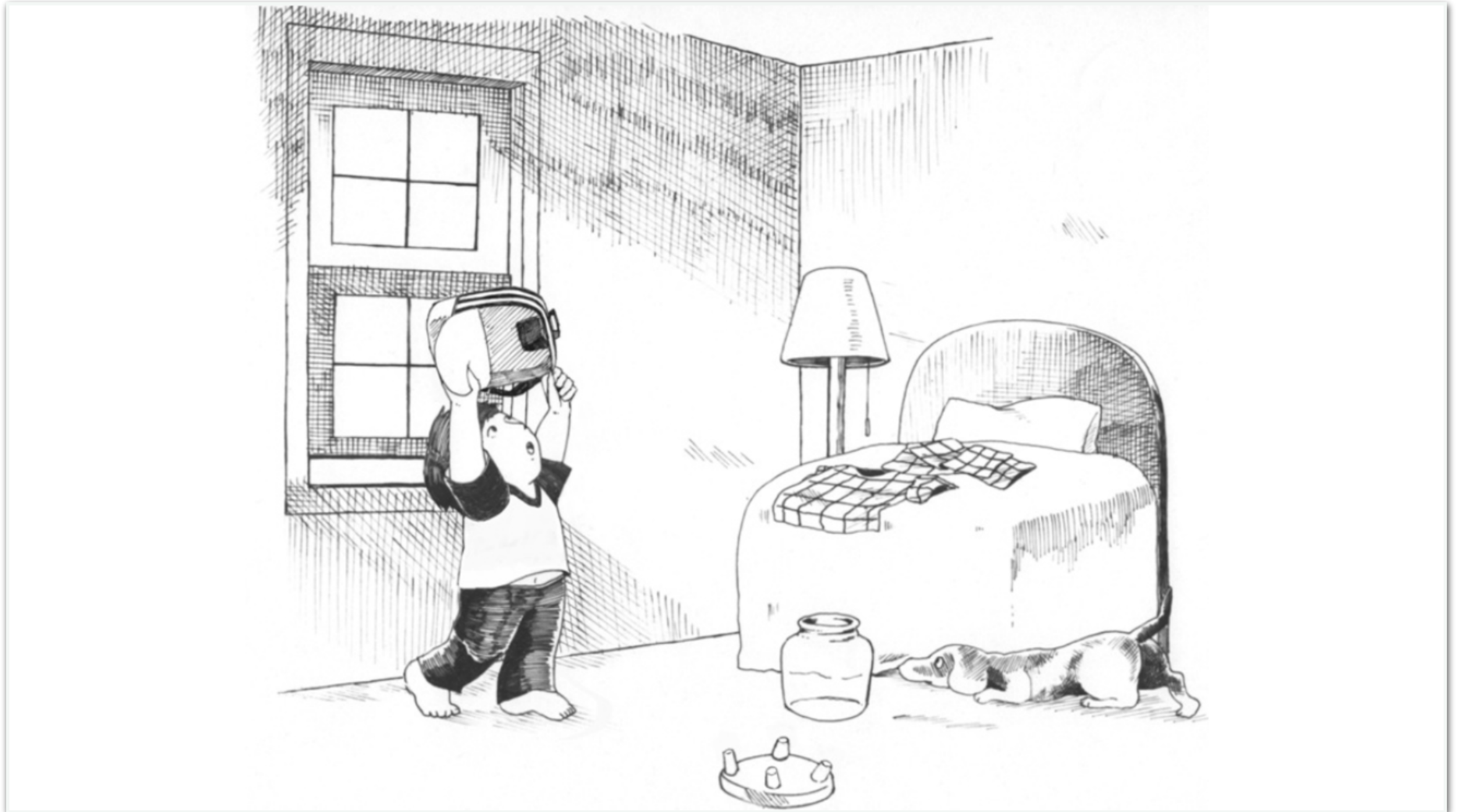
「文法」の側面

語用

「実際の使用」の側面

再生ナラティブ言語評価法 (かえるさん、どこいったの)

再生ナラティブ（語り）を用いた言葉の評価法

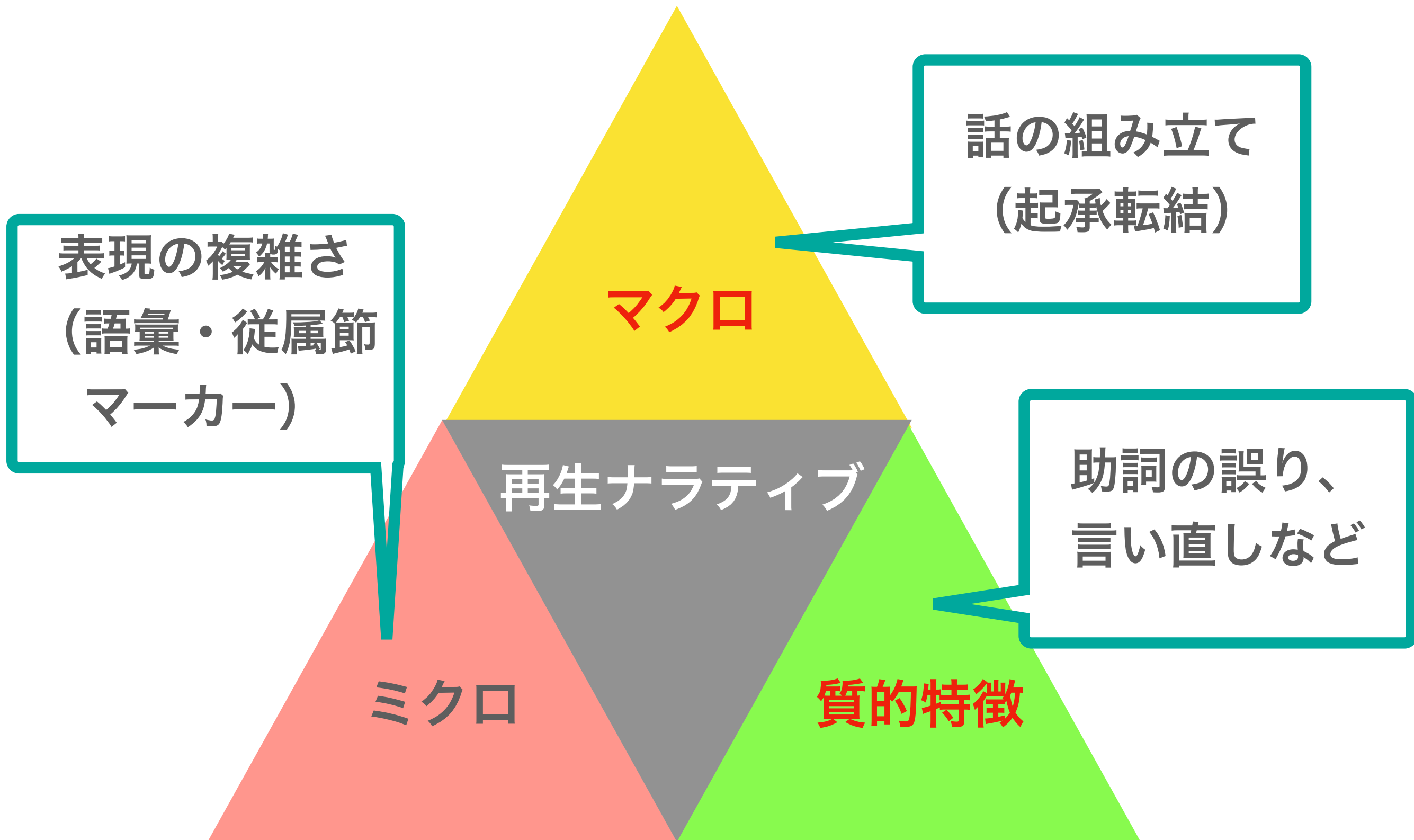


再生ナラティブ言語評価法 とは？

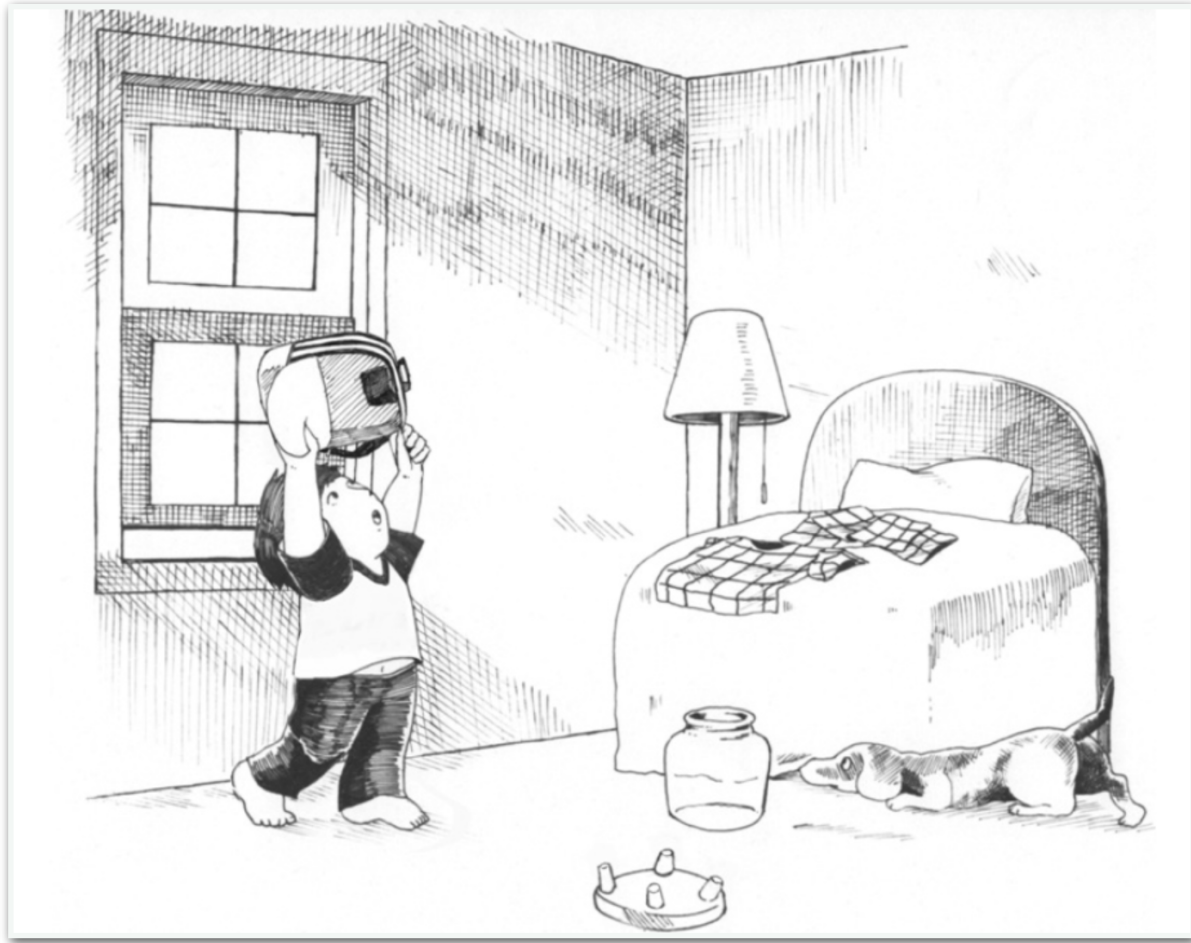
- 4分弱の読み聞かせ（自動再生のナレーション）をした後に、
子供自身の言葉で同じ話を語らせる
- 話のあらすじがつかめているか、話の組み立てに必要な語彙が
出ているか、などが評価の観点となる
- 標準化検査では見えにくい「言語特徴」を把握することで、効率的
かつ効果的な言語指導に繋げることができる

「J-CLD版ナラティブ再生言語評価法かえるさんどこいたの」マニュアルより

再生ナラティブの評価について



助詞の誤り



ナレーション

「ある夜、まもるくんと犬が眠っている間に、かえるが瓶から這い出てしまいました。そして、開いている窓から外へ逃げ出しました。」

Aさん

夜、まもるくんと犬が寝ている間に、かえるが瓶の中に
から
出てきて、開いてる扉のところに外に出かけました。
から

主語と目的語の置きかわり



ナレーション

「怒ったフクロウも、穴から出てきてまもるくんを脅かしました。」

Aさん

そして、木の中にいたまもるくんは、
フクロウ

フクロウに驚かそうかと思いました。

まもるくんを

再生ナラティブ言語評価法の結果より

- 表現の誤りはあるが、
大枠の**起承転結はつかむことができている**
- 「お別れ」「余計に」など、
難しい表現を使うこともあった
- 動作主の表現が曖昧になることが多い

支援の内容

本児の実態と支援への仮説

本児の実態

学ぶ内容が明確に
伝えられていることは
身に付いている

視覚的な手掛かりと
音の結びつきは悪くない

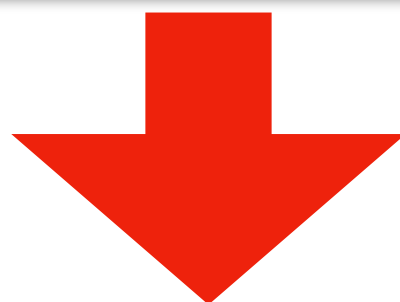
起承転結はつかめる



仮説

意味あるストーリーの中で語彙や文法を
学んでいくことが有効なのではないか？

意味あるストーリーの中で語彙や文法を
学んでいくことが有効なのではないか？



具体的な手立て

担当者とのやりとりを記録し、それを活用する

動画での
フィードバック

チャットでの
フィードバック

テクノロジーで「やりとり」を**可視化**させ、**コンテンツ化**させる

「やりとり」を可視化・コンテンツ化する

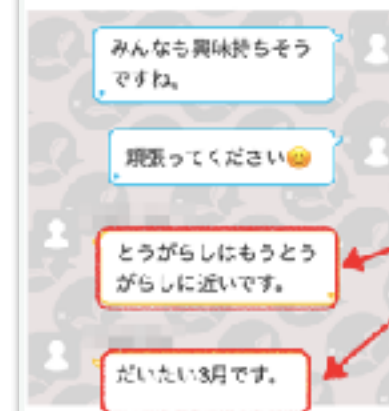
動画での フィードバック



チャットでの フィードバック

チャットによるフィードバック

チャットログを活用し、伝わりやすい表現を促す



By Talk for School

実際のワークシート

とうがらしは もう とうがらしに近いです。

とうがらしはもうすぐで
かんせいです。 

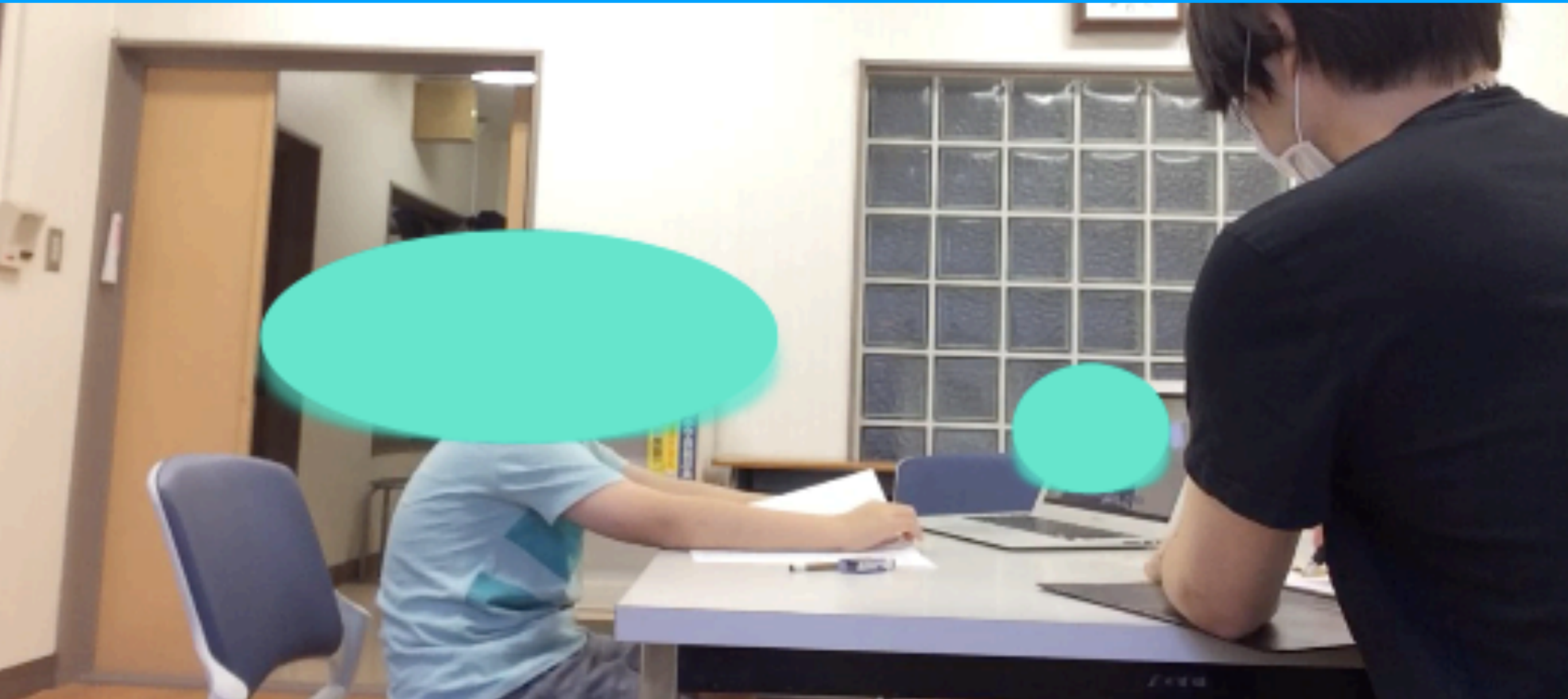
だいたい3月です。

育つのはだいたい3月です
2020年の **3ヶ月のこと?**

自分の文脈の中で、修正や調整ができる

動画でのフィードバック①

表現の誤りがある動画を見せる（字幕付き）



動画でのフィードバック②

動画を見た感想



動画でのフィードバック③

「プール〇泳ぐ」



「動画でのフィードバック」を行うにあたって

前提

- ・褒められ、たくさん喋っただけで嬉しくなり、やりとりに満足する時期は終わっていた
- ・より正確に伝えたいというニーズの高まり

関係性や子供の性格を十分に配慮する必要がある



動画での振り返りで「メタ認知」を刺激する

自分の言動を客観的に振り返る



Aさん



「ここがおかしいのかも？」

チャットによるフィードバック

チャットログを活用し、伝わりやすい表現を促す



By Talk for School

みんなも興味持ちそうですね。

頑張ってください😊

とうがらしはもうとうがらしに近いです。

だいたい3月です。

別の言い方をしてみましょう



実際のワークシート

とうがらしは もう とうがらしに近いです。

とうがらしはもうすぐで
かんせいしています。



だいたい3月です。

育つのはだいたい3月です

2020年の

3ヶ月のこと？

おつかれさまでした😊
どんなことをしたんですか？



08-01 19:03

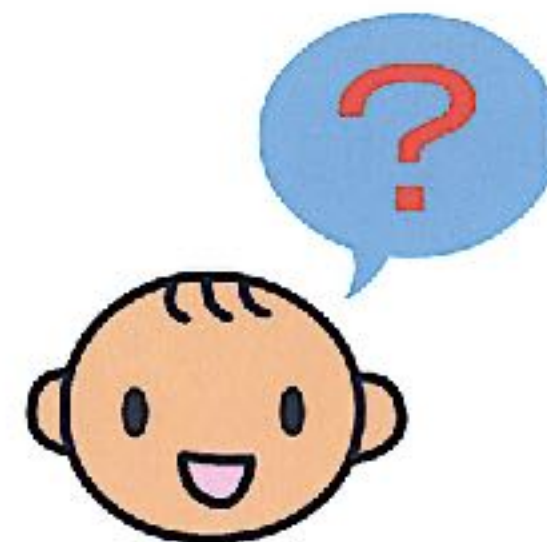
遊びです



もう少し具体的に

伝わりやすいように、
具体的な表現を促す

おつかれさまでした😊
どんなことをしたんですか？



ほくはともたろとゲ-4 い
あそびました。😊



先程の動画から数日後のチャットのやりとり

🙏 ごめんなさい今日は
プールがあるからちょ
とメールを送らないで
す。時間は6時から7
時までプールをします。

だいたい5時まででき
ます。

通級で確認した言い回しを、
すぐ活用しようとしている

語彙の学習について

語彙学習アプリを探す上でのポイント

音声読み上げがある

視覚的な手掛かりがある

シンプルな操作性

進度を自分で確認できる

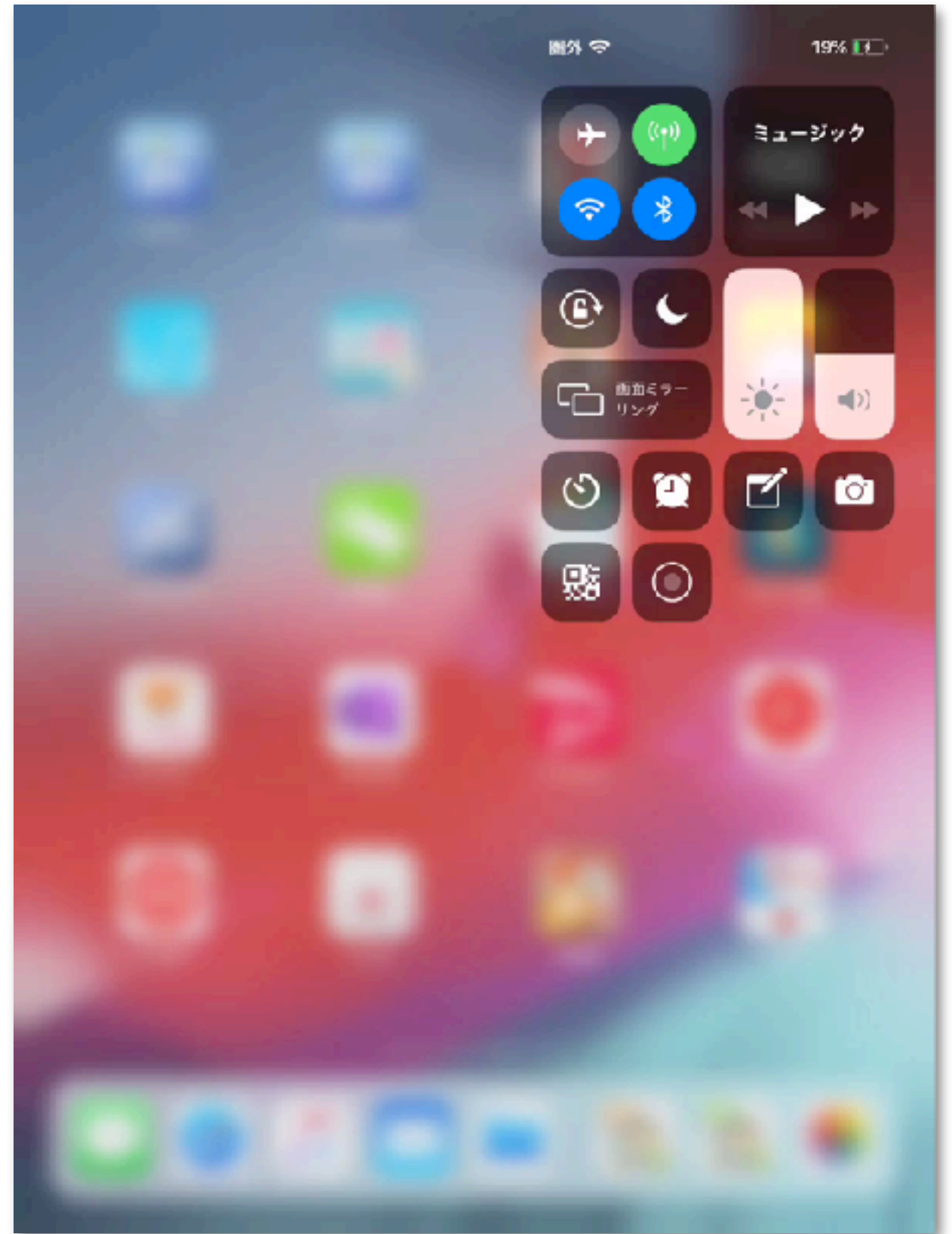


「ことばのべんきょう」



「DROPS」

語彙指導アプリ「ことばのべんきょう」



島根大学大学院総合理工学研究科縄手研究室
鳥取大学附属子どもの発達・学習研究センター

「DROPS」



翻訳ツール（ポケトーク）を使って保護者とやりとり 複雑な内容を伝える時には母語で伝える

児童の様子や支援の目的を共通理解するため



ポケトーク

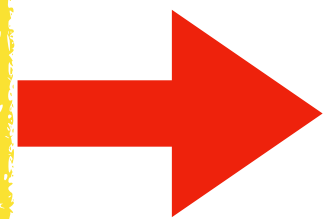


学級での様子をポケトークを
使って説明しているところ

今後の支援について

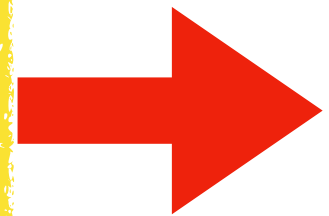
日本語に触れる機会をより増やしていく

- お互い（子供・支援者）が同じテレビや漫画を見て、チャットで意見を交換する



「内容をシェアする」 感覚を補償する

- 知らない言葉に出会った時の対処法を検討する



Amazon Echoの辞書機能の活用 など

引用文献

柴山真琴・ビアルケ（當間）千咲・高橋登・池上摩希子.(2016).子どもの言語習得とグローバル化時代のインターフェース：海外居住の国際家族におけるバイリテラシー実践を手がかりに.発達心理学研究.27(4),357-367

島田直子.(2016).

多文化背景の子どもたちへの知能検査の利用法ー心理教育アセスメントに関する近年の米国の文献からー.LD研究.25(3),358-367

加川純子.(2020).

米国カリフォルニア州の公教育における言語療法士（SLP）の役割と責任.LD研究.29(2),154-157

「J-CLD版ナラティブ再生言語評価法かえるさんどこいたの」 マニュアル